

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001153		
法人名	有限会社 リトルデン		
事業所名	グループホーム おひさまの家		
所在地	〒800-0337福岡県京都郡苅田町大字稲光字黒岩1130番一 1 TEL0930-25-8886		
自己評価作成日	平成 23年07月1日	評価結果確定日	平成23年07月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設立地が自然に囲まれた環境の中で日本四季を体感できます。手軽な散歩コースも設けており、アウトドアにも力を入れております。家族会も年2回実施、その間に家族の来所頻度も多くなり、いつでも相談を受ける体制をとっています。トラブルも小さく未然に防止できます。
 施設長の方針
 利用者=ご家族=施設 この3つの関係が等しくバランスのとれた正三角形を築いて行きたいことです。私達はご利用者とご家族の関係が上手く育まれるよう、常に見守り支援することです。1にもご利用者 2にもご利用者、あつてのご家族、私達があるのです。上記の通り理念に基づきご利用者の介護に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年07月19日		

「おひさまの家」は、緑の森から吹きぬける爽やかな風を受け、落ち着いた家庭的な雰囲気、小規模多機能ホームと併設したグループホームである。二匹のセラピー犬の出迎えを受け、玄関に入ると、利用者職員が丹精込めて仕上げた、見事な作品が、建物の中にたくさん飾られ、来訪者の目をくぎ付けにしている。リビングでは、利用者職員が楽しそうに談笑したり、作品の制作に夢中で、利用者一人ひとりが、自由に生き生きと暮らせる環境である。利用者の健康管理は主治医の往診や、常勤看護師の見守り、利用者一人ひとりに合わせた生活リハビリ等、自立支援に向けた取り組みで、身体機能維持向上を目指している。また、ホーム主催の夏祭りは地域住民や家族が大勢参加し、地域密着型グループホームとして信頼の輪が広がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、ミーティングにて理念、基本方針を唱和し、全員共有によりプラン作成等に反映でき、それが職員の業務として実践出来るようにしている。	利用者と共に過ごす日常生活の中で、心のケアを行いながら、それぞれの生活能力を活かし、尊重し、明るく楽しく生活できるよう支援することを理念に掲げ、毎日唱和し、目につく場所に掲示する事で職員が初心に戻るための心得としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者、職員は進んで地域の行事に参加し、ホーム主催にて地域合同の夏祭り等を行い、地域交流を図っている。ホーム行事に地域ボランティアや保育園児の参加により、地域の一員として交流を深めている。	利用者と職員は、年2回の公民館の清掃、月1回の草刈、敬老会など積極的に参加し、また地域の協力を得て行うホーム主催の夏祭りは、活発な交流の場となっている。地域ボランティアや保育園児の来訪は、利用者にとって楽しいひと時となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の入居が増し、見学数も増え、地域の方々の集まりの場としてホームを開放している。又、地域の方へ「介護相談」を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域住民、町役場の職員参加による、二ヶ月毎の推進会議を実施している。活発な意見交換があり、ホームの運営に反映している。	2ヶ月毎の会議では、参加者から質問、意見、要望、情報提供などを受け、ホームからは、現状、予定、課題などを報告し、充実した会議となっている。また、出された意見は検討し、サービスの向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村、社会福祉協議会の研修等には積極的に参加し、運営推進会議には町役場の職員がメンバーとして参加され情報交換及び協力体制が出来ている。(SOSネットワークへの参加)	行政主催の研修会や、SOSネットワークへの参加によって、行政との協力関係が確立している。また、運営推進会議にも、行政職員が参加し、関係の強化が図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束のマニュアルを再確認を行い、職員同士で問題点(こんな場合etc)をチェックし、対応策を話し合い、スキルUPに活かしている。	職員間で、身体拘束や虐待などに関するチェック体制を確立し、職員一人ひとりが、身体拘束の弊害を理解しながら、利用者が安心して暮らせるように支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者との日常生活の中で変化や会話に心の目で聞き、心の目で見る事が出来る様、職員同士の連携により、見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が、研修会に参加し、職員に説明し、理解してもらっている。成年後見制度パンフレットを用意し、いつでも利用者や家族に説明できる体制である。	制度に関する資料やパンフレットを用意している。管理者が外部研修会に参加し、内部で伝達研修を行うことで全職員の理解を深め、制度の活用に向けた支援体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず、社内では、契約時二名が対応する。納得、ご理解して頂けるよう、契約書類は前もって渡す、目を通した後、疑問点や補足部分を十分説明し双方納得の上締結とする。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族、知人等の来所時に、意見や要望を聞き出せるよう時間を取っている。出された意見、要望は運営に反映している。	運営推進会議には家族の参加が多く、会議終了後、家族同士で話し合う機会を作り、また、家族来訪時や電話などで、意見、要望などを細かく聴きとる努力を重ね、出された意見は出来るだけ運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員各自の意見を十分に聞き入れ、活かせる場を設けている。運営推進会議に交代で出席し、意見や要望を聞く機会があり、それをケアに活かし反映している。	職員会議では活発に意見を出し合い、施設長、管理者は、出された意見を運営に反映できるよう工夫している。「ここは、こうした方がいいのでは?」「ここをこうして欲しい」という職員からの声に対しては常に迅速に検討し、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が、信頼できる職場作りを目指し、また個々のレベル強化も含め、全員がやり甲斐、強調性を持てるように職場環境を見直し、適正な給与水準を考える。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、性別、年齢の制限はない。3ヶ月の研修期間後、施設長、管理者と話し合い、双方納得の上で入社している。また職員の勤務時間等希望を聞き、勤務ローテーションを作成し、職員が働きやすい環境を作る努力をしている。	職員の採用は、性別、年齢の制限は無く、本人のやる気や介護への思いを重視している。また、職員の希望を聞き、勤務ローテーションを柔軟に作成し、職員が生き生きと働きやすい職場環境作りを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長、管理者は「人権研修」に参加し、利用者の尊厳について繰り返し内部研修を実施している。	施設長、管理者は、人権研修に参加し、職員会議や内部研修で人権に関する話を繰り返し行い、意識付けをしている。利用者の尊厳を守ることを最も大切に考え、人権教育に力を入れている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会受講希望者の職員には、勤務時間等を調整して受講できるようにしている。施設長、管理者は、職員の得意、不得意を把握し、得意分野で活躍できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホーム協議会」に参加し、情報交換や技術の交流を図っている。また、職員同士の相互訪問等で交流し、介護サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学会や体験入居を通じて、入居希望者と馴染みの関係をつくり、入居後は、利用者や家族からの聞き取りを基に、暫定プランをつくり、少しずつ、馴染みながら、安心して生活できるように支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入前に家族の意向、ご要望等を傾聴し全面的に安心されて頂けるように説明すると共に良き信頼関係を築くように努めます。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入するに当たり、本人にとって必要とするサービス、支援を段階を踏まえてサービス提供できるよう努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は共に暮らし、学び、支え合う関係である。職員は利用者の出来る事柄を発見し、励まし続けて行けるよう方向性を支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の情報を家族と密に連絡を取り、家族も共に利用者を見守り、支援する体制をとる。この三者の絆がバランスよく保てるように努める。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域からの利用者が増え、気軽に来所出来るように支援に努めている。又外出出来るように支援している。	利用者の友人、知人の来訪時、職員はお茶などの接待を心がけ、居心地良く過ごされるよう配慮している。また、馴染みの美容院への送迎や、月命日の帰宅など、家族と相談しながら、本人の思いを大切に、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方々が集まり過ごす時間を作り、顔見知りより始め、気の合う仲間作りが出来るよう側面的に立ち支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族からの相談があるときには、できる限りフォロー、支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の暮らし、毎日の関わりの中で言葉や表情から、利用者本人の思いの把握に努め、出来るだけ希望に添えるように努力している。意向表出の出来ない利用者には、家族や関係者から話を聞き、本人本位の支援を検討している。	職員は、利用者や家族のような関係を築き、その気持ちに寄り添い、利用者一人ひとりが、今何をしたいのかを把握し、利用者、家族に「ここが一番」と思われるように、日々努力を重ねている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供や家族からの聞き取り、内容を十分に参考とし、共に生活する実践のうえ把握に努める。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい過ごし方を尊重することを基本とし無理のないよう現状に即した支援に努める。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の思いや意見を聞き反映させながら、本人の視点に立ち穏やかな生活が出来よう、その都度、介護計画の見直しを行っている。変更時は本人、家族に説明を行っている。	利用者、家族の意見を聴き、関係者と相談しながら、3ヶ月ごとに介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、その都度家族と相談し、介護計画の見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画はADLの低下や変化が見られた場合は、本人、家族、関係者と話し合い見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への送迎、外出、家族宿泊、出張マッサージ等利用者や家族の要望にできるだけ応えられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で共存共栄が出来る様に、町内、社協の行事にできる限り参加し、本人の心身の活動の場を広げ、生きる楽しさを応援する。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、利用者の持病、病歴を考慮し本人と家族の希望を優先し、掛かりつけ医師を決め、ホーム提携医や救急病院を利用することを等も納得してもらっている。	家族と協力しながら、かかりつけ医の受診支援をしている。また、ホーム提携医の2週間に1回の往診、救急病院との連携、ホーム看護師による見守りなど、利用者、家族の安心、安全な暮らしを支えるための体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で職員間の観察力を養い、利用者の体調の変化を捉え、的確な情報を看護職に伝え相談し、利用者が、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常より掛かりつけ医とは、連携をとり入院時には利用者の心身状態を安定に保持し出切るに職員間で協力して面会を行い、入退院時には病院関係者との情報交換に努め早期退院へとなるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた指針を作成し入居時に事業所の出来る限度の説明を理解の上、家族、主治医と日頃から連絡を取り、家族の意向を確認し、職員全員で共有できる体制である。	利用者の重度化に向けて、利用者、家族の希望を聴きながら、ホームで出来ること、出来ないことを家族に伝え、話し合い、方針を共有している。また、提携医のアドバイスを受けながら、利用者が安心して暮らせる支援体制を確立している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	利用者の微に至る変化を早期発見、早期対応を日頃より実践力を身につけるように、看護職員を中心に勉強会をしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署よりの避難訓練のビデオを参考に常時、職員先導のもと訓練をゲームとして取り入れ訓練する。区長、民生委員、地域住民にお願いして、避難訓練に参加していただく。警報機を設置し、防災対策も実施している。	消防署の指導により、地域の方の協力を得て避難訓練を実施している。また、自主防災訓練を毎月実施し、成果が上がっている。非常食、飲料水の備蓄も行っている。調査に伺った日も、浴槽に水を溜め、台風に備えての準備もされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重し、利用者一人一人の誇りを大切に受け留め、プライバシーの確保を徹底する。対応に関しても職員間でチェック仕合い、より良い声掛け、接遇が出来るように確認し合っている。	職員全員が、モラルアップのための研修会に参加し、利用者のプライバシーの確保や一人ひとりの尊厳を大切にする取り組みに力を入れ、利用者の、穏やかで安心した暮らしを支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が安心して自己表出が出来るように職員は一人ひとりの特長を理解の上、発語や自己決定の表出が難しい方は、身振り手振りやYes,Noで自己決定が出来る様に働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のその日の心身状態を把握し一人ひとりのペースを大切にし、利用者の希望に添って、その人らしく暮らせるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員でホメ合うことを実践している。いくつになってもおしゃれには関心があり整容、化粧等、衣類の身だしなみを忘れない為に日々持続出来るよう努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしいものを楽しむ食事とを考えのもとでメニューもみんなで決め、日曜、祭日はおまかせメニューが好評です。盛り付けも特に工夫しており、同じテーブルで同じ者を食べ、楽しい会話を心掛けています。準備も片付けもみんなでします。	畑で採れた野菜、差し入れの新鮮な野菜を沢山使ったメニューや、利用者のリクエストに応えたメニューなど、元気の源としての食事を大切に考えている。また、利用者と職員は、下拵え、盛り付け、後片付けなどを一緒にに行い、同じテーブルで会話しながら一緒に食べる風景は、楽しそうである。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事レベルに合わせ食事形態を工夫しており、食事と水分摂取量を記録し、健康状態のチェックをしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、おやつ前に口に口腔体操にて口腔の働きを促進し、毎食後個々の口腔状態に合わせた口腔ケアを本人のレベルに応じたケアを支援している。訪問歯科の検診も利用する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立を支援し、利用者に合わせて排泄方法を見出し、出来るように習慣化を図り、時間毎の排泄チェック表を作り、各利用者の排泄パターンに合わせて誘導を行っている。	利用者の排泄の自立のための支援体制を確立しており、実際に紙おむつから布パンツになった方もいらっしゃる。自信を回復した利用者の笑顔は印象的である。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の食物、水分摂取量を考慮し、食物繊維の摂取、水分の摂取を工夫し腹部マッサージ・歩行や全身運動による腸骨の働きを促し、個々の排便コントロールを含め予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、利用者の希望を考慮し、入浴は、グループホームが2ユニットあり、交代で行っているため、毎日入ることも可能である。利用者の希望する時間にできるだけ合わせて入浴できる支援をしている。	入浴日は一応決めているが、利用者の状況に応じていつでも入浴できる体制を整えている。また、入浴が嫌いな方にも無理強いせず、その気になるまで気長に待つなど、利用者の気持ちに寄り添った支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々に応じた生活習慣を踏まえ、昼食後に30分位の午睡を設け、全身をリラックスしたり、夜の入眠前に温かい飲み物を出している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬内容の表を作成し、職員が内服薬の作用等を把握して与薬し、状態の変化を観察記録している。異変時は速やかに主治医へ連絡し、指示を仰ぐこととする。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、利用者の生活歴や得意分野を把握し、一人一人にあった役割を考え、お願いしている。カレンダーを作り、季節ごとの作品、折り紙、ホールの中で歩こう会等、日々の暮らしがマンネリ化しないよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方々にも利用者と一緒に買い物、ドライブに誘っていただき、利用者職員は、3ヶ月に1回の野外レクリエーションや、買い物、外食、ドライブ、近所散歩など利用者一人一人に合わせて、その日の体調を配慮し、支援している。	外出好きな職員が、利用者と相談しながら、平尾台に出かけるなどの野外レクリエーションやドライブ、回転寿司などの外食を定期的に計画し、家族の協力を得て、利用者が生きがいを感じる外出の支援を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が生活品で欲しいと申し出の方には、買い物へ同行し本人の希望や力に応じ支援している。金銭管理可能な方には出来る限り本人の希望に添える機会を支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が安心出来るように希望があれば電話で話す機会を設けたり、手紙を書かかれればポストに投函したり、職員と一緒に文面を考えたり支援している。		
@O:	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内をぬくもりのある明るいムード作りに徹し、利用者に季節を五感で感じてもらえるように、ホールの壁面に季節感のある手作りの作品をみんなで作ったり、暮らしやすい共用空間にする。	緑の森に囲まれた建物の中には、職員のアイデアで利用者と一緒に作った季節の飾り物で溢れ、生き生きとした明るい雰囲気を訪れる人を楽しませてくれる。収穫を楽しむ畑や、広いリビングから眼下に眺めることの出来る景色など、利用者が季節を感じながら居心地良く暮らせる環境である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が孤立しないように共有空間を自由に行き来出来るように整備し、誰でも気軽に交流が出来る機会を職員が中間になり支援する。皆が思いのまま楽しく過ごせるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で生活しているのと同じように馴染みの家具や使い慣れた物を持ち込んでいただき、ホームの生活に支障のないように居心地よく過ごせるように支援している。又、限られた居室内でも定期的に模様替えしながら気分転換となるよう支援する。	居室は、出来るだけ馴染みのものを持ち込み、安心して暮らせる環境を作り、穏やかに居心地良く暮らせる支援をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に対してデッドゾーンがないよう安全対策を万全とした環境整備に取り組み、手すりや歩行器、手引き等、各利用者の能力に合わせた運動やレク活動に安全に参加できるように工夫している。		